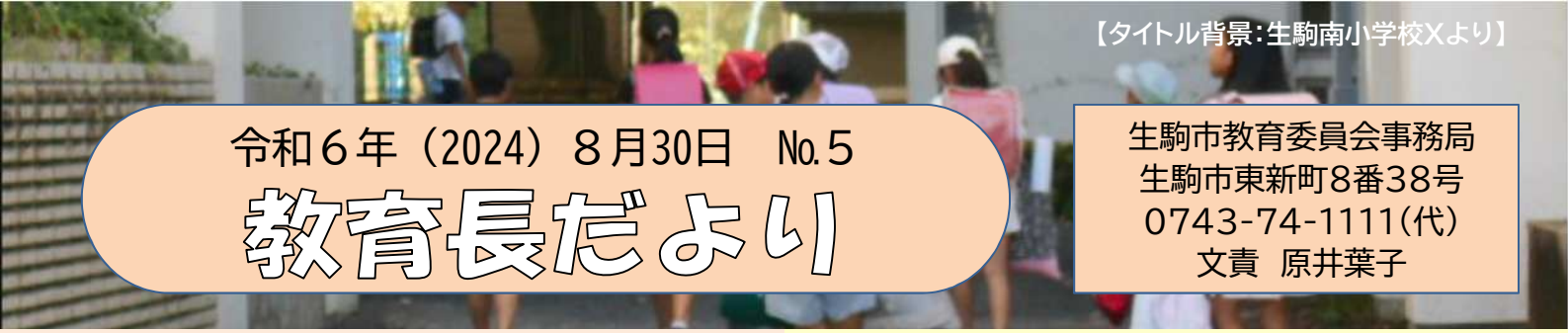
【タイトル背景：生駒南小学校Xより】

令和６年（2024）８月30日　No.５

教育長だより

生駒市教育委員会事務局
生駒市東新町8番38号
0743-74-1111(代)
文責　原井葉子

市内小・中学校では8月26日から新学期が始まり、子どもたちの笑顔と元気な声が戻ってきました。

夏期休業期間中、保護者や地域の皆様方には、通学路の安全点検や環境整備、体験活動やお祭りなど、学校と連携して様々な取組にお力添えをいただき、ありがとうございました。子どもたちは、学校の授業では学べない経験や楽しい思い出がたくさんできたことでしょう。

引き続き2学期も、よろしくお願いします。

学校に行きづらいときには

長い休みの後は、環境の変化に対応することが苦手な子どもたちにとって、登校への不安感が高まります。勉強や人間関係、体調など、様々な要因で学校に行きづらいと感じたときには我慢や無理をせず、そのような状況からいったん離れることが必要な場合もあります。大切なことは、そのことを一人で抱え込まずに、家族や友達、教員やカウンセラーなど周りの誰かに伝え、相談することです。自分が安心して過ごせる場所や方法を、周りの人と一緒に考えることで、不安やしんどさが軽くなり、希望や目標がもてるようになるのではないかと思います。

各学校では、別室で個別の学習や活動ができる校内サポートルームや、オンラインによる授業など、本人や保護者の方と相談しながら自分に合った場所や学び方が選べるような体制づくりに取り組んでいます。

学校外では、「いきいき・のびのびほっとルーム」や「フレキシスクール（不登校支援ならネット）」で、様々な状況に応じた個別の対応をしています。各学校の教員やスクールカウンセラー、教育相談室、子ども・若者総合相談窓口（ユースネットいこま）等、気軽にご相談ください。

また、子どもたちのタブレット端末の画面の下に、「悩み相談窓口一覧」につながるアイコンを設定しています。電話やライン、メール、チャットなど、いろいろな方法でどんなことでも気軽に相談できるようになっていることを、子どもたちにもぜひ知っておいてもらいたいです。

◎　いきいき・のびのびほっとルーム
https://www.city.ikoma.lg.jp/0000022454.html
◎　不登校支援ならネット生駒教室　☎75－5002
◎　生駒市教育相談室
https://www.city.ikoma.lg.jp/0000022450.html
◎　生駒市子ども・若者総合相談窓口
https://www.city.ikoma.lg.jp/0000002181.html

「全国学力・学習状況調査」の結果・分析

今年度の全国学力・学習状況調査における生駒市の調査結果の分析をまとめ、公表しました。

https://www.city.ikoma.lg.jp/cmsfiles/contents/0000004/4287/R6gakuryokujoukyoucyousakekkabunnseki.pdf

本市は、小・中学校ともに学力においては、非常に高い水準にあります。これは、基本的な生活習慣や勉強時間の確保など、家庭や学校での安定した生活に支えられていることが大きな要因であると考えます。

例えば、質問紙調査の、「1日当たりのテレビゲームやSNS、動画視聴をする時間」は、生駒市の小学校・中学校ともに全国より少なく、「学校の授業以外に1日当たり勉強する時間」は、平日・土日ともに全国より多い結果になっています。日々の生活・学習習慣の定着が、学力の向上につながっているのではないかと思います。

課題としては、タブレット等ICTの活用状況で、小学校は全国・県を上回っていますが、中学校は下回っています。タブレット等ICTの活用について、「分からないことがあった時にすぐ調べることができる」の回答が9割、「楽しみながら学習を進めることができる」の回答が約8割であることから、子どもたちの主体的な学びを進めていく上で、授業の中でどのように有効に活用していくのか、研修等の取組を進めていきたいと考えています。

各学校でも自校の調査結果を分析、共有し、授業改善や学習環境の整備、研修等、市教育委員会と連携を図りながら、課題の改善に取り組んでまいります。

「サイエンス」探究教室を開催

生涯学習課の主催で、中学生を対象とした講座を、8/8・22、9/8に実施。今回は、奈良高専の先生や学生さんにご指導いただき、ロボットの仕組みを知り、プログラミングで自由に動かすプロジェクトに挑戦しました。

ロボットがコースを移動し紙コップを目的地に運ぶ過程で、速さやコースの読み方、止まり方など様々な課題に、参加者は試行錯誤しながら何度も何度も改良を重ねていました。

このように、子どもたちが自分で考え、調べ、実践する力を伸ばす機会を、今後も企画していきたいと考えています。